

06【概要】石岡市博物館等個別施設計画

■基本的な考え方

- ・ **ふるさと歴史館は、将来的には除却する方向で検討を進めるが、当面は現施設を活用していく。**
ふるさと歴史館は、歴史、民俗資料等の収集、保存及び展示並びにその活用を図ることを目的として設置されており（石岡市立ふるさと歴史館条例（平成17年条例第84号））、歴史の里、常陸国の歴史を伝える施設として、歴史の中心であった常陸国衙跡地内に立地している。現在、ふるさと歴史館内に展示されていない資料については、旧給食センター（文化財管理センター）に保管されているが、将来的には集約化、機能移転、複合化を検討しながら、当面は現施設を活用していく。
- ・ **農村資料館は、市の施策や利用者の利便性などを考慮しながら機能移転を進め、機能移転後は除却する。**
農村資料館は、郷土の特色を示す民俗文化財又は市の歴史の流れを裏付ける民俗資料等の収集、保存及び展示並びにその活用を図り、郷土の歴史と文化に対する市民の知識と理解を深め、もって文化の振興に資するため設置されている（石岡市農村資料館条例（平成17年条例第95号））。
現在、大増小学校跡地内に立地しているが、市内公共施設の利活用策や都市機能施策との整合性及び利用者の利便性を考慮しながら、八郷総合支所への機能移転を基本とする。
- ・ **常陸風土記の丘は存続する。**
常陸風土記の丘は、市民はもとより広く外来者の利用に供し、もって、本市観光の振興を図り、市民生活の充実に資するため設置されており（石岡市常陸風土記の丘条例（平成18年条例第39号））、石岡地区唯一の体験型観光施設として現状を維持、存続していく。

1. 対象施設

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築 年度 (年度)	構造 (主たる建 物)	備考
1 常陸風土記の丘	染谷1646番地	2,457.98	平成2	W造	古代家屋・鹿の子史跡公園古 代家屋含む
2 ふるさと歴史館 (旧民俗資料館)	総社一丁目2番10号	211.00	昭和48	S造	
3 農村資料館	大増1519番地	92.74	平成6	W造	
合計		2,761.72			

2. 計画期間

2020（R2）年度から2029（R11）年度までの10年間。

3. 対策の優先順位の考え方

優先順位① 建物の健全性を確保するための躯体健全性調査を行い、劣化状況を把握する。

優先順位② 劣化状況に応じた老朽化対策や修繕を行う。

4. 個別施設の状態等

安全性：ふるさと歴史館は、「築40年以上と老朽化が進行しているため、大規模改修工事などの早急な対応が必要」とされている。（白書）

農村資料館は、外壁の劣化が見られるが、躯体は比較的健全な状況である。

常陸風土記の丘は平成2年建築であり安全性は確保されているが、古代家屋や遊具等の継続的な状況把握が必要となる。

5. 対策内容と実施時期 下記工程表のとおり。

施設名	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
ふるさと歴史館	躯体健全性調査	中規模修繕								
農村資料館	躯体健全性調査									
常陸風土記の丘		躯体健全性調査	大規模改修							

6. 対策費用

ふるさと歴史館（中規模修繕）

更新単価（社会教育系施設＝80千円）×施設面積（211.00㎡） ≒ 16,880千円

常陸風土記の丘（大規模改修）

更新単価（社会教育系施設＝250千円）×施設面積（2457.98㎡） ≒ 614,495千円

合計 631,375千円

※「石岡市公共施設白書」のコスト試算で用いた地域総合整備財団の更新費用試算ソフトの共通試算条件の更新単価（大規模改修費用の単価）及び計算式（下記参照）を使用した10年間の更新費用。ただし、健全化調査や設計費用等は含まない。

7. 今後の対応方針

- ・ふるさと歴史館は、本市の歴史や文化を伝える施設として当面は現施設を活用していくが、将来的には、除却することを検討する。今後は、他の公共施設への機能移転や他の機能との複合化を検討しつつ拠点施設の確保を目指す。また、旧給食センターで管理する資料等の収蔵施設を併設した機能の集約化についても検討していく。
- ・農村資料館の機能移転後は、住民等と協議を行いながら、施設を地元に譲渡する方向で検討する。
- ・常陸風土記の丘は体験型観光施設として存続し、インバウンドを含む来園者増を目指す。